

創造

JA いけだ
CREATION

新1年生おめでとう

今月号の表紙写真は、4月8日に利別・池田小学校に入学された、新1年生の集合写真です。写真左より、利別小学校1年生の甘利侑愛ちゃん、山内光蔵くん。池田小学校1年生の原口裕都くん、秋田凌青くん。



CONTENTS

- ※第30回 通常総会開催
- ※第43回 海外農業視察研修
- ※21NEWSアラカルト
- ※新入職員紹介
- ※平成31年度農業労務日雇
協定賃金のお知らせ
- ※畜産部通信
- ※石田邦雄の農業拾い読み
- ※Aコープ利別店より
- ※理事会の動き

2019.

5
MAY

No.113

第30回 通常総会開催



組合長挨拶

**全議案原案通り可決承認了承
農業粗生産額は63億7200万円**

合併以来3番目

第30回通常総会が4月17日午前9時30分より西部地域コミュニティセンターにおいて開催され、全議案が原案通り承認されました。

当日は、正組合員234名（委任状・書面議決書含む）が出席。各関係機関から来賓の皆様が出席して、開会宣言の後、JA綱領の朗唱、物故組合員への黙祷が行われました。続いて平成30年度農畜産物高品質多収穫共励会では9部門15品目で30名の成績優秀組合員の表彰が行われ、永年勤続職員5名の職員表彰も行われました。

鈴木組合長の開会挨拶の後、来賓の池田町長・勝井勝丸様、十勝総合振興局産業振興部農務課主幹・石丸喬浩様、連合会を代表してJA北海道中央会帯広支所長沼田光弘様より祝辞を頂きました。

議長には多田勝氏（清見2）と佐藤誠一氏（昭栄北）が選出され、平

成30年度事業報告、平成31年度事業計画を含む5議案が上程され、原案通り承認されました。

最後に青年部・十河耕太郎長と女性部・伊賀みさ子部長が「JA北海道大会決議事項の着実な実践を通じて自己改革の取り組みに関する特別決議」決議文を読み上げ、前回北海道大会の決議事項を継承し「農業所得増大」「担い手確保・育成」「サポートづくり」を加速・拡充していくこと、協同組合の原点を改めて見つめ直し「新たな協同組合」の姿を継続的に討議すべく、平成31年度における大会決議事項の実践にあたり、組合員・JA・連合会・中央会がそれぞれ役割を再確認したうえで、「力強い農業」と「豊かな魅力ある農村」の実現を目指し、JAグループ北海道が一丸となり自己改革を着実に実践していくことを決議しました。

（記事・営農部長 新沼二郎）



▲ 池田町長 勝井勝丸 様
による祝辞



▲ J A 綱領朗唱



◀ 北海道十勝総合振興局
産業振興部農務課主幹
石丸喬浩様による祝辞



▲ J A 北海道中央会
帯広支所長 沼田光弘様
による祝辞

◀ 総会の様子

▼ 決議文を読み上げる（左から）
伊賀みさ子女性部部長、十河耕大青年部部長



▲ 議長
（左から）多田勝 氏、佐藤誠一 氏

平成30年度 十勝地区農協青年部協議会

第43回 海外農業視察研修ヨーロッパ

東台 村瀬 冴美

はじめに

この度、2月19日から10日間、十勝管内5農協から7名参加のもと、ドイツ・オランダ・フランスへ農業視察研修に参加させて頂きました。簡単ではございますが、視察研修についての報告をさせて頂きます。

ドイツ

シュミット牧場

フランクフルトより北北東に57kmのところにある牧場で、両親と長男、次男の家族4人と従業員2人で、300頭の乳牛の飼育と200haの畑・バイオマス発電を行っていました。長



男は機械の修理などを専門に行い、次男はバイオマス発電所を担当してコントラも行っているそうです。

まず、最初に牛舎へ案内されましたが、ホルスタインだけではなく、シンメンタールやブラウンスイスなどの牛もいて、普段見る事の無い種類の牛たちを見る

事が出来ました。"丈夫でミルクいっぱい"がモットーという事だけあって、牛たちはとても元気そうで、かわいらしかったです。ここで出た牛たちの糞と尿は同じ敷地内にあるバイオマス発電所で使われ、残ったカスにカルキを混ぜて牛たちのベッドに使っているということに驚きました。

もう一つ驚いたのがバンカーサイレージでした。このバンカーサイレージはコンクリートのブロックを積み木のように積み上げて作っていました。そのため移動することも出来るそうです。

そして今ドイツでは牛の舌が青くなる病気が流行しています。

ているそうで、ちょうど獣医の人が予防接種に来ていました。

オランダ

グラドバッハーホフ

オランダのヘッセン州ユースタスライビッグ大学の実験農場で、経営と植物に対する研究を行っているところでした。経営については約90頭の牛を飼育し、植物については畑の穀物、飼料、ジャガイモなどをオーガニックで栽培して研究していました。

オーガニック栽培では8年輪作をして、化学肥料や農薬を使わない工夫をしていました。最初の2年はア

ルファルファを作り土に窒素を蓄え、3年目に秋播小麦を作って雑草を減らし、4年目でつるもろこしやジャガイモなどを作ります。5年目は冬の穀物（ライ麦など）を作り、6年目は豚の餌になる豆類（大豆など）を作り、7年目にまた冬の穀物を作り、8年目には、小麦や大麦などを作っていました。そのため、牛などの餌の自給率は100%だと言っていました。そしてオランダでオーガニックの大豆を作って何に使うのかと聞いたところ、食用ではなく豚の餌だと聞いて驚きました。



バーレンセ農場

巨大な温室で、無農薬でパプリカとミニトマトを作る施設でした。1つの温室が10haもあり、全部で30haもの敷地で栽培していました。温室の温度管理も灌水管理もすべてコンピュータで管理されていて、最先端のスマートアグリを見学させてもらいました。

他にも持続可能な農業を目指し、化石燃料ではなく天然ガスを使い自家発電を行ったり、地下エネルギーを温室に利用するなどして環境への負荷を出来るだけ少なくする取り組みが行われていました。



バーレンセ農場

キャンピングファーム・ブローヘク

70頭の乳牛の飼育と55haの牧草地とキャンピング施設を、両親と息子の3人で運営する牧場でした。1日3回するという搾乳は、抗生物質などを与えている牛もすべて搾乳ロボットでしており、回収できない乳は牛に付けられた電子タグで判断し廃棄し、機械の洗浄をしていて手搾りはないとのことでした。そのため毎日の仕事はまず牛ではなく、パソコンで前日の牛の乳量を確認することから始まるそうです。

オランダでは匂いなどの苦情が出るため、堆肥は全て牛舎の地下に貯めており、海拔マイナス3mと低い土地のためトラクターで積んで運ぶにはぬかるんで埋まってしまったため、ホースを使い畑に撒いている

そうです。そして苦情が来るくらいなので、堆肥を撒いた時はキャンプ場には観光客が来ないのかと聞くと、逆に田舎らしくてウケが良かったと言われるらしく、矛盾を感じました。



キャンピングファーム・ブローヘク

フランス

モーリス野菜・果物農場

家族4人と従業員3人で17haの畑と温室で約40種類の野菜と果物を栽培している、小規模多品目で家族運営の共同経営農業集団（GAEC）でした。販売先も複数あり、自分達で運営し

ている直売所や市場、近くのお店の他に、AMAPという生産者と消費者が契約して定期的に対面で販売するというシステムもありました。

農場の説明で興味深かったのが、アグロフォレストリーという新しい農法でした。畑の周りに木を植え、生物の多様性を利用するというやり方でした。木を植える事で虫や鳥などの多くの種類の生物が集まり、畑の環境が整っただけではなく、落ち葉が畑の養分となり、日陰や風よけにもなるというものでした。しかし、まだ始まったばかりの農法で上手くいかないこともあり、始めてから4年経つそうですが、何度か木を植え替えているので木の大きさがバラバラでした。ですが、水引きが早く、雨あともすぐ畑に入れるようになったり、病気や害虫の発生が抑えられ農薬がいらなくなるなどの効果もあるということな

ので、これからのアグロフォレストリーの発展が楽しみです。

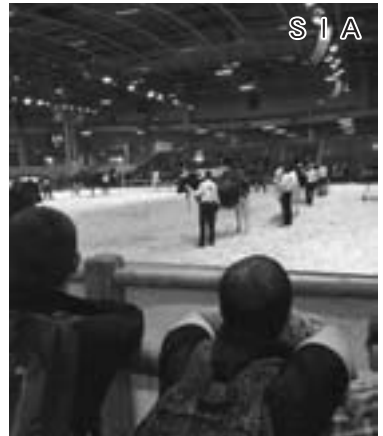
SIA（農業見本市）

毎年フランスで行われている大きな農業のイベント“農業見本市”でした。フランスから農業・酪農に関する様々なものが集まり、農業関係者でなくても思わず楽しめてしまうようなお祭りでした。

牛や豚、羊や馬だけではなく犬や猫までもが集まり、様々な地域の特産品や加工品などの出店が集まった会場もありました。学校が休



モーリス野菜・果物農園



何倍もの広さの会場に、もっと大きなトラクターが集まっていた。

一緒に視察に行ったメンバーはその凄さに興奮していました。機械に疎い自分にはいまいち分

らず、勉強不足を認識しました。しかし、会場にはメーカーのグッズが売られているショップや、ゲームセンターのようなトラクターのシュミレーションが出来る機械やVR体験コーナーもあり、機械の疎い自分でも楽しめる会場でした。

SIMA(国際見本市)

こちらもSIMAと同じように大きなイベントでしたが、“トラクター”などの農業機械が中心の2年に1度パリで行われる国際見本市でした。去年帯広で行われた国際農業機械展でもとても広く普段見ることのない大きなトラクターに驚きましたが、SIMAはその



最後に

今回海外視察研修にいったことは、思いきって行ってみて本当に良かったということです。まだ見ぬ海外の景色や日本とは違うヨーロッパの農業、新しい出会いや発見に期待している自分もいましたが、やはり最初は不安も多かったからです。英語もまともに話せず、今まで人との交流を積極的にしてこなかった自分でも大丈夫なのかなと。しかし、最初は長いように感じた10日間の海外研修も終わってしまえばあっという間だったように感じます。そんな海外研修、視察の中で様々な日本の農業との違いを目の当たりにしましたが、その中で思いに残っているのが、みんなで行った食事でした。今回の海外研修ではほとんどの食事が行程に組み込まれており、そのほとんどをみんなと一緒に取っていました。

日本に比べて量が多くみんな食べるのに苦戦していましたが、どの国の食事でも美味しく楽しいひと時でした。みんなとは今回の海外研修ではじめて会う人達でしたが、美味しい食事を共にすることで徐々にうちとけていくことが出来たように感じます。やはり美味しい食事は人と人をつなぐし、それを作る農業はとても大事でやりがいのある仕事だとあらためて実感しました。そしてその美味しさを分かち合い一緒に作っていく仲間の大切さも！

視察中は日本の農業との様々な違いに出会い、とても楽しく刺激を受けました。特に、環境問題に対する考え方は是非参考にしたいと思いました。やはり日本とヨーロッパでは条件が違い参考になるものが限られていると感じました。では同じ日本でなら、北海道なら参考に出来るかと思いましたが、自分はほとんど

日本の農業も北海道の農業も知らないことに気づきました。これからもしっかりと身近なところからあらためて勉強したいと思いました。

今回、自分自身にとってはヨーロッパへ行くことはとても勇気がいることでしたが、チャレンジすることが出来たおかげで少なからず自信になったと思います。そして次回もまた頑張ってみたいと勇気と自信を得ることが出来ました。今回、海外研修に行つて新しい農業のやり方や広い世界を見てみたいと期待していました。けれど戻ってきたら違いました。新しいものに出会いましたが、そのことで逆に身近なことに改めて気付いたり、考えるきっかけとなりました。そして少しの勇気ももらえました。今回の思い出や経験をともに、これから美味しいものを仲間と一緒に作って、楽しく美味しく食べられるように頑張っていきたいです。

総会の様子



青 年 部

第68回 全道農青協 定期総会

4月4日に札幌市で開催された第68回全道農青協定期総会に参加いたしました。総会が始まる前に株式会社クリエイティブオフィスキューの北川久仁

子氏による学習会が行われ、「これでいいのだ 私の食育」という題で、ただ食べるだけではなく、楽しく食べるのが大事であるという持論を話していただきました。

総会では、JA道青協会長をされていた今野氏がJA全青協の会長に就任される予定であること、そして副会長をされていた村田氏がJA道青協会長に就任することが決まりました。今野氏、村田氏ともに北海道、そして日本の農業の為に頑張っていられる決意を述べていました。その後、「これからの北海道農業一丸となって頑張りたい」という渡辺参与の思いがこもった頑張ろう三唱で閉会されました。

その思いを汲み我々盟友一人一人が結束し不透明な農業情勢に負けないよう頑張っていきたいと思います。一緒に参加した役員も次年度につながるいい経験になったと思います。

（記事・青年部部长 十河耕大）

青 年 部

青年部春期研修

平成31年度青年部春期研修（3月27～28日）では長沼にある雪印種苗（株）北海道研究農場とタキイ種苗（株）長沼研究農場に伺いました。雪印種苗では液肥など植物活力資材と土壌線虫害対策、タキイ種苗では野菜類の品種について学ばせて頂きました。

雪印種苗では、親会社である雪印メグミルクで培われた技術をつかった乳酸菌液肥やアミノ酸液肥を使用し、植物本来の力を引き出すことができるとのことで、多くの作物での成長促進・収量増加が見込めそうな資材だと参考になりました。また土壌肥沃化の緑肥作物を利用し、土壌病害のひとつである線虫への対策方法としても有効な品種や使い方があることをお教えいただきました。

タキイ種苗では、施設の概要やタキイ種苗にて取り扱いしている野菜類の品種・基礎的な知識についてお話を聞くことができました。

今回の研修では、植物が生長するにあたって必要な物や、病害の発生や拡大の仕組み、抑制方法などを学ぶことができ今後に役立てていきたいと思っています。（記事・青年部員 寺井宏行）

タキイ種苗（株）長沼研究農場にて集合写真



営 農 部

経営継承に備えて 冬期講座開催される

3月6日と8日の2日間にわたって農協冬期講座が開催され、延べ34名の組合員と後継者が参加しました。

講座は3部構成で企画され、第1部と第2部

(株)石田コンサルタントオフィス代表取締役
石田邦雄様

は当組合広報誌「創造」で4月号から寄稿を頂いております、(株)石田コンサルタントオフィス代表取締役の石田邦雄様に現経営者向けに「親として経営者として」、後継者向けに「次代の農業を拓く誇りを」をテーマに親世代・子世代それぞれに対するメッセージと自分を振り返る機会の重要性をお話し頂きました。第3部では昨年度に引き続き、税理士法人竹川会計事務所代表社員竹川博之様に「経営継承における税金」をテーマに相続税・贈与税を中心にお話し頂くとともに、出席者からの相談にも対応していただきました。

近年、当組合管内でも経営継承を迎える組合員が多く両講師からは、「準備やその心構えは数年前からじっくり計画的に進めていくことが大事である」というメッセージを頂きました。

(記事・営農部長 新沼二郎)



税理士法人竹川会計事務所代表社員
竹川博之様

研修会の様子



畜 産 課

牧草機械利用組合 総会・研修会 ～草地更新3ヵ年運動～

3月28日、標記総会・研修会が開催されました。本組合は昨年8月、牧草播種機・簡易更新機・K型ローラーの

共同利用を目的に設立され、昨年は9月～10月上旬までに10戸延べ28圃場、約33haの利用実績となりました。本年度も春より機械の貸出を開始いたします。

総会後には並川職員が講師となり、草地更新の目的から雑草対策などの技術まで、地域の実態に基づいた内容の研修会を開催しました。これまでも広報では「草地更新のすすめ」として情報提供をして参りましたが、本年度はこれらを一冊にまとめた「冊子編」を配布させていただき、ご活用いただく予定です。「草地更新3ヵ年運動」は2年目を迎えますが、本年度も草地更新を推進し、牧草品質・収量の向上へ向けた様々な取組みを展開して参ります。

(記事・畜産部畜産課長 米川 武)

説明会の様子



畜産課

十勝地域組合員 総合支援システム 説明会を開催

3月25日に農協大会議室にて、標記システムの説明会を開催いたしました。このシステムは、一昨年から稼働しており当JA生産者の皆様にも広くご利用

用いただいております。

システムの概要としては、農作物・飼料作物の生産履歴を、パソコン・スマートフォンから報告することができます。また、組合員勘定の状況などを確認できる機能もあります。家畜飼養農家の皆様におかれましては、自農場の飼養頭数などを確認することもできます。

説明会当日は、農協連の担当者を講師に招き、30名を超える生産者の皆様にお集まりいただき、多数のご意見・ご要望をいただきました。

このシステムをご利用いただくには、個人毎の登録が必要となりますので、まだ未登録の方がいらっしゃいましたら、JA十勝池田町管理部管理課までお問い合わせください。

(記事・畜産部畜産課 岩城 諒)

女性部

女性部から光寿苑へ トイレットロールを寄贈

3月14日に特別養護老人ホーム池田光寿苑へトイレットロールを寄贈して参りました。

この取り組みはJA十勝女性協議会の事業の一環で、回収した紙パックを紙業メーカーへ売却し、その益金によりトイレットロールを購入して寄贈しています。

当日は、当農協女性部長の伊賀みさ子さんと、高島農協女性部長の丸山真由美さんで伺い、寄贈をしてきました。

女性部では今後も紙パック回収事業を続けていきます。Aコープが閉店してからの回収ボックスの設置場所は、本所1階ロビー西側(AED横)にリングブルや古切手などの回収ボックスと一緒に設置致しますので今後とも皆様のご協力をよろしくお願い致します。

(記事・営農部営農課 豊原英梨)



トイレットロール寄贈
(左から 大熊理事長、丸山部長、伊賀部長)

新入職員紹介

4月1日付けで新入職員が仲間入りしました。皆さん、どうぞよろしくお願い致します。



たか だ まさ ひろ
高 田 昌 廣

生年月日 昭和34年1月17日
出身地 静岡県
出身校 酪農学園大学
趣味 サイクリング
所属 農産部 農産課
抱負 8年ぶりに池田町に戻ってきました。これまでの経験を生かし組合員の皆様のお役に立てるよう頑張りたいと思います。

平成
31年度

農業労務日雇協定賃金のお知らせ

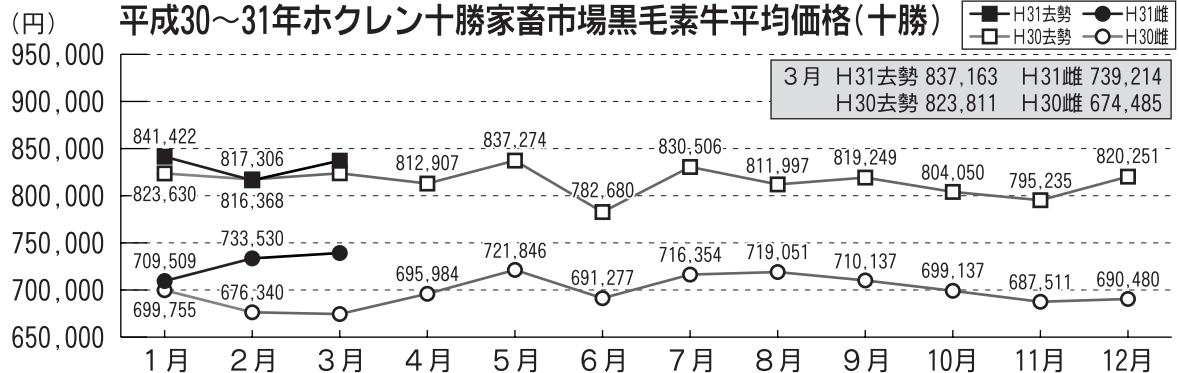
作業名	労賃	時間当	作業内容
春作業	7,000円	875円	芋切り、選別、ビート間引き、ポット作り、補植、芋・ビート機械植え、野菜移植、苗取りなど
田植え	7,000円	875円	苗植え、補植
除草	7,000円	875円	除草作業
秋作業	7,000円	875円	収穫作業
重作業	7,400円	925円	長いも・ゴボー収穫作業、豆積み、抜き草作業、スコップ作業等の重作業
その他作業	6,700円	837円	その他の軽作業

※時間外は一律
1,200円/時間です

- ①多少の時間外については、支払はない。
- ②就業時間は、午前7時から午後4時30分、実働8時間とする。(午前・午後15分ずつ休憩。昼食時間は1時間)
- ③オヤツは500円/1人以内とする。
- ④住所・氏名を事績報告書に記入し領収印を押してください。支払い賃金・オヤツ代は正しく記帳し、領収書の保存が必要です。
- ⑤この賃金表の適用期間は平成31年4月1日～令和2年3月31日です。

畜産部通信

畜産部
畜産課



3月黒毛素牛出荷区分別成績

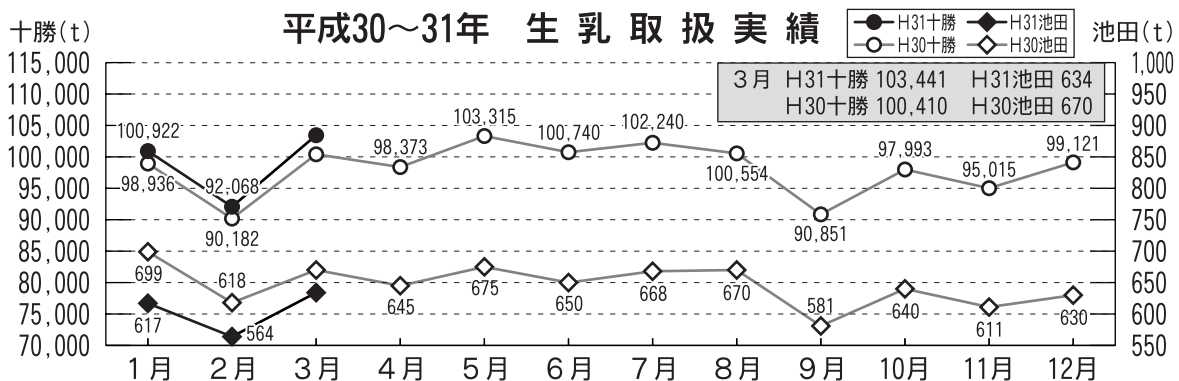
【金額(円)】

		取引頭数	平均価格(税込)	前月価格比	参加率・認定率
去勢	和牛素牛	794	837,163	20,795	
	マニュアル参加牛	496	844,481	10,670	62.5
	マニュアル認定牛	62	907,130	-35,575	12.5
	池田和牛素牛	69	840,647	14,152	
	マニュアル参加牛	63	833,794	9,857	91.3
	マニュアル認定牛	7	898,251	52,611	11.1
雌	和牛素牛	490	739,214	5,684	
	マニュアル参加牛	318	740,764	70,378	64.9
	マニュアル認定牛	14	820,183	14,844	4.4
	池田和牛素牛	30	729,360	35,659	
	マニュアル参加牛	29	728,479	51,679	96.7
	マニュアル認定牛	2	829,980	—	6.9

3月ホクレン十勝枝肉市場

【金額(円)】

開催日	区分	規 格	平均単価(税抜)
9 日	黒毛 去勢	A－5	2,440
		A－4	2,259
		A－3	2,032
	黒毛 雌	A－5	2,441
		A－4	2,274
		A－3	2,030
	F 1 去勢	B－3	—
		B－2	1,424
	F 1 雌	B－3	1,382
B－2		1,352	



3月ホクレン十勝乳牛市場

【金額(円)】

開催日	区分	取引頭数	平均価格(税込)
4日	乳牛育成	601	548,175
6日	乳牛初妊	575	969,836
	乳牛経産	72	611,820
22日	乳牛初妊	508	909,821
	乳牛経産	119	412,732

3月十勝中央家畜市場

【金額(円)】

区分	平均価格(税込)	前月比
乳牛オス初生	142,336	+20,842
F1オス初生	319,196	+45,209
F1メス初生	224,221	+49,123
廃用牛	204,476	+17,456



畜産部通信

畜産部
畜産課

草地更新
3か年運動

草地更新のすすめ

パート12

草地の雑草に着目!!

1 番草の生育とともに雑草も目立つ季節になりました。特に広葉雑草ではタンポポやギシギシが、イネ科雑草ではメドウフォックステイルやリードカナリーグラスが容易に確認できると思います。ぜひ、この時期に草地の雑草の侵入状況を確認し、これからの雑草防除対策や草地更新の必要性などについて検討してください。

○ タンポポが多い場合

草地一面にタンポポが侵入している場合は更新を検討してください。更新できない場合や侵入程度が少ない場合は、秋の最終刈り取り後にギシギシ対策としても有効な、「バンベルD液剤」を散布します。タンポポは完全枯死しませんが、翌春の生育をかなり抑制することができます。なお、薬量は75~100ml/10aで希釈水量は100ℓ/10aです。

○ ギシギシが多い場合（経年草地）

1 番草の収穫後20~30日を目安に「ハーモニー75D F 水和剤」を散布します。収穫直後はギシギシの葉が展葉していないので、薬剤が葉に付着しません。一方、収穫後日数が経過しすぎると、ギシギシが抽苔開花し種子が登熟します。薬量は3~5 g/10aで希釈水量は100ℓ/10aです。なお、春（1 番草生育中）散布すると牧草の生育が停滞し収量が減少します。また、「ハーモニー75D F 水和剤」はクローバ類には薬害が生じるので、マメ科が混播された草地では使用できないので留意してください。



秋播種後埋土種子からギシギシが発生していた草地は要注意です

○ メドウフォックステイルが目立つ場合

種子は開花22日後に発芽能力を獲得することが報告されています。なので、発芽能力を獲得する前に刈り取りを行うことが防除対策の第一歩となります。目安としては6月上旬までに1 番草を刈り取ります。なお、防除対策全般については、前年のJA広報8月号を参照してください。



メドウフォックステイルが一面に侵入した草地

<記事提供> 雪印種苗株式会社 トータルサポート室 技術顧問 並川 幹 広



新元号令和を迎えて

(有)石田コンサルティングオフィス

代表取締役 石田 邦雄



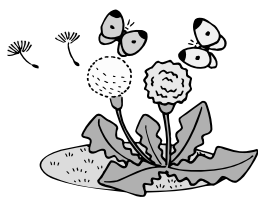
この5月から長年親しんできた平成が令和に変わりました。皆さんにとりましてはどのようなスタートだったでしょうか？私事になりますが中小企業診断士として独立開業したのが平成元年でした。以降、30年ほどの歳月を経て「何かと平成に育てられた」という思いがあり、改元之际にはちよびり名残惜しい反面、令和にはまた別のワクワク感に似た気持ちを抱く私がおります。というのも奇しくも私は令和天皇と同じ誕生日の2月23日からです。元談交じりに「これからは私の誕生をこぞって国民が祝ってくれる」などと嘘づいている昨今です。振り返ると

忘れもしない3年前。台風が半月間に3度も北海道を襲うなど、平成は何かと天災等にみまわれた感があり、営農をするに際しても非常に苦勞なされたのではないのでしょうか？願わくば新元号になる令和は互いに安寧な日々を暮らせる時代であって欲しいものです。

ところがついでもう一つ、私事を。新年度を迎え、毎朝、私にとり贅沢な時間が訪れます。それはNHKBSの7時30分から8時までの30分間で、一つは十勝を舞台にした朝ドラ「なつぞら」。もう一つが「にっぽん縦断こころ旅」です。前者はスタートの第1週のタイトルが「なつよ、ここ

が十勝だ」でした。ここ十勝池田においてもロケが行われたとか？実は私の故郷は新得町です。そこで昨年からお付き合いをしている牧場があり、どうやらそちらでもロケが行われたとのこと。人育て等で関係している身としては、従来の朝ドラとは比べものにならない親近感を覚えております。そしてドラマを通じて酪農の一端を垣間見たり、あるいは開墾当時の大変さを改めて教えられたりしています。また「こころ旅」は当初から内容的にホッコリ感を感じ、肩肘張らずにみる事が出来る数少ない番組の一つです。愛車（といっても自転車ですが）である

チャリオットに乗っての火野正平の肉体的な魅力なのでしょうか？視聴者が心に残った風景等を全国各地から発信し、私自身もいつのまにか各地を訪れている心境になったりもしてきます。そんな意味でこの30分は私にとり「心を空っぽ」に出来る、とても貴重な時間なのです。最近は秒進分歩とも称される環境激変の中に身をおいている私達です。そうするとそれが大きく精神的な負担を強いることに繋がります。加えて成果主義が至極当たり前となり、人間の持つ情緒的側面が疎かにされる傾向が強くなりつつあります。加えて、家庭はもとより職場や地域での人間関係が希薄なものとなるなど、様々な要因が重なりメンタルヘルス不調に陥ることも少なくありません。現に役所を初めJAでもそれにより長期休養を要する人も増えつつあるのが現状です。そんなこんなもあり



理事会の動き

第 2 回

〈平成31年4月25日〉

★ 報告事項 ★

- (1) 組合員の加入、脱退及び資格変動について
- (2) 組合財務の現況について
- (3) 傷害共済の加入について
- (4) 平成30年度法人税等の納付について
- (5) 固定資産の処分について

★ 議 案 ★

- (1) 理事報酬の配分について
- (2) 行政庁に提出する業務報告書の承認について
- (3) 余裕金の運用方針及び運用方法について
- (4) 平成30年度生乳流通体制合理化推進事業による発電機取得並びに転貸について
- (5) 貸付金利率の最高限度並びに信用供与等限度額の設定について
- (6) 理事に対する資金の貸付について
- (7) 理事に対する豆の買取販売にかかる包括事前承認について
- (8) 固定資産の取得について
- (9) 役員賠償責任保険の加入について
- (10) 組合員慶弔関係支出について
- (11) 平成31年産買い取り豆類取扱要領について
- (12) 平成31年産共同計算運営基本事項について
- (13) 地区懇談会の顛末とその対応について

★ 協 議 案 ★

- (1) 生活事業検討経過について
- (2) 特定組合員について
- (3) 平成31年度役員研修について

Aコープ利別店より

ご愛顧
ありがとうございます
ございました

平成31年4月30日をもちまして閉店させていただきました。

長らくご愛顧いただきました皆様に、心から厚く御礼申し上げます。

